

津波発生時の行動

津波から身を守るには、津波が届かない場所へ避難するしかありません。また、ハザードマップは想定の一つですから、想定以上に大きな津波が来たときのこともお考えおきましょう。
津波の危険がある場所では、揺れを感じたらすぐに避難することが重要です。

このようなときには



強い揺れや、長い揺れを感じた



「大津波警報（特別警報）」
「津波警報」を見聞きした



「津波注意報」を見聞きした

直ちに避難する

- 強い揺れや弱くても長い揺れを感じたら、また、体で揺れを感じなくても、「津波警報」等を見聞きしたら、いち早く沿岸部や川沿いから離れ、直ちに近くの高台や津波避難ビルなど、可能な限り高い場所へ避難してください。**ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう。**
- ライフジャケット（救命胴衣）の準備も有効と考えられます。



- 津波は想像を超える速さ、あるいは想像を超える場所からやってくることを認識しておきましょう。

- 余震により再度津波が発生する場合があります。警報・注意報が解除され**安全が確認されるまでは、決して戻ってはいけません。**

- 正しい情報をラジオ・テレビなどで入手しましょう。

避難に備える

- 海の中にいる場合は、直ちに海から上がって、海岸から離れてください。
- 沿岸部や川沿いなど津波の危険がある区域にいる場合は、いつでも避難できるように準備してください。
- 「予想される津波の高さ」、「津波到達予想時刻」などの情報を見聞きしたら、直ちに安全な場所に避難しましょう。



このような行動を

その後は

津波避難3原則

「釜石市津波防災教育のための手引き」より

一、想定を信じるな

- …「相手は自然であり、到着時間や高さ等、人間の想定どおりの津波が来るとは限らない」
- 津波浸水区域を示したハザードマップ等の情報を鵜呑みにしないこと

一、最善を尽くせ

- …「そのときでできることに全力を注ぐ。少しでも早く、少しでも高い場所に避難する」
- 指定された避難場所だからと安心せず、もっと安全な場所に行けるのであればそこを目指して避難し続けること

一、率先避難者たれ

- …「いざというとき、人間は自分から進んで避難しようとしにくい傾向がある」
- 「まずは自分が率先して避難する」そういう心の準備をしておく。誰かが避難している姿が、周りの人々の避難を促し、多くの命を救うことにつながる

<参考>浸水深と被害程度 気象庁HPより作成

浸水深 (m)	1	2	4	8	16	32
木造家屋	部分的破壊	全面破壊				
石造家屋	持ちこたえる			全面破壊		
鉄筋コンクリートビル	持ちこたえる				全面破壊	
防潮林	被害軽微 津波軽減	漂流物阻止		部分的被害 漂流物阻止	全面的被害 無効果	

！ 津波と避難に関する標識を覚えておきましょう。



津波注意

「地震が起きた場合、津波が襲ってくる危険性が高い地域」



津波避難場所

「津波に対して安全な避難場所・高台」



津波避難ビル

「まわりに高台がない場合に利用する、津波から避難できる高さ・耐震性のあるビル」